

昭和18年11月1日（月）

森田さん母堂来らる。明日女学校運動会と覚ゆ。頃日連日快晴。坊や小便失敬することあるも乾く。但し道路面板塀を利用せざれば、庭内は全く日影を見ず。曩に通運会社より交付を受けたる小切手650円は、証書の所在不明の為、保証書を（自宅に於いて亡失したるものにて、他人の手に渡らず。万一他人の手に渡しし場合、損害は会社に及ぼさずの一札を差入る）徴され、本日再交付を受く。ミワさん銀行にて現金受領（千四百円）。

昭和18年11月2日（火）

快晴。運動会は多忙の為、坊を連れ行くこと、否運動会すら念頭に浮かばざりし。請求千四百円、蓋し空前の多額なりし。然し査定されて請取り後判明、頗る当惑せり。齒は澄子分アマルガム入れ完成。ミワさんも完成せり。料金はミワさん支払ひ下さる。森田さん3時の下り汽車にて大分に行かる。

昭和18年11月3日（水）

明治節。森田さん母堂に負われて、坊や外出。二時間余遊びて販らる。ミシン機初めて取り出す。ベルト機械に食い込み素人の手に負えず。業者を招く。澄子、余の膝掛け製作初む。報告物二件調製す。

昭和18年11月4日（木）

切手類請求。森田さん昨日夕方販らる。恰度ミシンかけて居る際なりし。11時半より切手請取に出掛け、序でに振替貯金口座番号と氏名と不一致の為、広島振替貯金課より照会越しのものを、本町3丁目村上某を訪ぬ。薬

草屋なりし。下関口座を広島と誤記せし如し。中津局正午体操時間なり。竹折氏指導。竹折氏不在の際は木下氏、之に代わる。切手類査定は乱暴の嫌いあり。軟らかに注意を促し置きたり。此日は査定を行わず請求通り交付せり。森田母堂、湯に坊を連れ行かる。二階二階と、二階を「あごがる」。正明さんも居り、対手があるので一層遊びに都合がよいらしい。昨丸久の嫁御、書留にすべきを普通として投函せしを、ミワさん深切に電話し中津局と打合せ、手配してやりたる好意を謝し、牛肉配給日に非ざるに不拘百匁150持来。お金と交換に品物を渡し行けり。此の牛肉は5日夕飯に混ぜ飯となれり。呼子より届きたる小鯛の煎り子は、今朝汁に入れたるも、それ自体を食ふよりだしの方、味が出ぬ憾みありたり。

昭和18年11月5日（金）

甚さんより、昌成さん経営の硝子管製造会社へ礼状認め方申越しに対し、ミワさん苦心、余に応援を求めらる。此の夜、座敷に鼠一匹入るを目撃、捕捉に力め神棚の置物を叩き割る。ミワさん来たり、後の掃除に骨折らる。お米をばら撒き収拾に供力。鼠は退治せしも損害甚大なり。

昭和18年11月6日（土）

午前3時頃降雨。一時間弱にて歇む。温暖にて脱衣、天気も回復。朝は掃除せず。夕方突然、丹金氏来局。耶馬溪に行くと局員多数連行。向い側の飲食店にて夕食を認めて行かる。

昭和18年11月7日（日）

曇天なるも終日継続す。夕方立寄るものとして夕食の仕

度を整ふ。海老のシチューを作る。6時柿坂に電話せしに、3時の汽車にて出発の話なり。それまで夕餉を待機せしが、6時半漸く済ます。母堂三七日。

昭和18年11月8日（月）

朝来降雨、終日不歇。東京敏子さんへ返信出す。但し葉書にて、、降雨の為、防空演習は警戒警報に止まり、燈火管制を施行したるも夕方解除されたり。

昭和18年11月9日（火）

良助11時半頃来たり。会津に出発すべしとて挨拶に来る。ミワさん停車場に送る。巖も来て居りしと。煙草を求める為尋ね廻りしも、明日配給ある前日とて全部品切れ。ミワさん例により需めて敷島75交付さる。澄子明日販ると云ふ。電報にて、13日余と一緒に出発のことと通知せり。此の日終日降雨。一時陽が照りしも10分と持たざりし。

昭和18年11月10日（水）

概ね晴れ。風寒し。切手請求及び請取共、ミワさん行かる。朝払込と同時に、東吉富に松田某（和傘職人）を訪はる。20歳になる娘の和傘職として日給2円を得居るを、連続5年の技術職工を罷めて就職を希望するもの。此夜8時、母堂に伴われて其の娘来局。澄小包保管棚の下戸棚の硝子戸を、坊やに破られたる儘なりしが、今夜修理して貰ふ、、松田氏二男某17の為、ミワさん木下氏を訪はる。

昭和18年11月11日（木）

松田氏を吉富町に訪はる。坊を負ふて行かる。教会の信

徒なりと（竹下三信、傘職人）。信子氏は日給2円を棒に振り、女中兼事務員となることを承諾さる。甘藷配給第二回目、一名一貫匁づつ。吉富町へ出張のミワさん、午後1時過ぎ販宅。来月頃より来局の筈。其の間先約の向きに出掛けるらし。今月は藷配給分、米差引かれ来客多数。臨時増配以上食込み、瓶の中には浅米少々となる。箱の中にも心細い程残り居る。此の分なら愈々心して食べねばならなくなる。

昭和18年11月12日（金）

急に寒くなる。高山に雪が降ったらし。澄子に拵えて貰った膝当てを巻く。曇り、時々陽光を仰ぐ。

昭和18年11月13日（土）

此日より11月23日（火）まで11日間記載なし。

昭和18年11月24日（水）

此の朝、掃除をしたり日誌を附けたり色々用事がありしも、サック入り大切な万年筆所在不明。之が搜索の為、時間を徒費したるが、二三日前二階に遊びに来た六年級の某と認定。同人の家庭は悪いらしい。そこで犯人の推定がついては諦めるに不如。綺麗薩張り、脳裡から惜しいの気持ちを放擲することに努めたり。23日玉屋に眼鏡の注文に行く途中、電車の中で手に抱えた風呂敷包みが天神町にて手より離れたを気附かず、乗客に注意されたる事件あり。包みの中には二十円現金が入れてあったから、場合に依りては遺忘の儘、用弁も出来ず空しく販宅する破目に陥りしやも不図（はからず）、万年筆と置き換えたものとも見らる。悔やむを甲斐なしと悟りぬ。但し其の為、

掃除も出来ず日誌も附くる機会を失せり。澄子出発を前にして理髪し呉る。朝来快晴。淳、風邪気味らしく顔面紅潮したるを見る。然るに一時間も寝た切り起き出でたり。熱もなさ相なり。坊や今日より咳す。9時半出発、道子澄子同道。駅まで徒歩す。坊は澄子に負わる。土産鶏肉及び鮭缶一ヶ。列車は3分遅れ着。空席多く楽に腰掛けらる。小倉に着は定時より5分遅れ、余す処3分に過ぎず。大急ぎにて乗る。二等車に入り込む。立錫の余地なし。乗客中、坊を負ふて立続けの姿を不憫と思ひしか、立ちて席を譲り呉れたるあり。二等客たる資格なきも、強いての勧めに腰を下ろす。20分間計り、坊下りたき旨訴ふ。悠々寛（くつろ）ぐ態を示すことの如何にも心なき感も致されて、坊を負ふたる儘中腰になりて労（いたわ）りしも、不可避に再び起ちて席を譲られし好意を謝し、再び其の人に掛けて貰ふ。此日小倉まで来る間、向い側の女客より、甘藷弁当より坊に二切れ分けて呉れらる。他の客よりは豆、及びスルメ圧さくしたるものを貰ふ。豆は不消化故、遣らざりし。多少遅れて中津着。お握り飯も与ふる機会なかりし。駅には例に依り、ミワさん待ち合わせ居らる。一昨発送の電報は不着の為、昨日終列近くまでお百度を踏ます。坊途中にて降ろす。汗したたり居る。販宅後水にて拭へ遣る。湯に行かる。夕食4時前済ます。

昭和18年11月25日（木）

快晴。坊や風邪、夕方より発熱。ミワさん水にて額を冷やし下さる。此日、坊ミワさんを追って泣く。甘えるとのみ思ひしが、矢張り変調を呈し居りしらし。昨駒次より柿届き、局員にも分与す。昭ちゃん販り飯の為、七つ土産

に、外に三ヶづつやれるをも加へて持たせらる。潰れた分、数ヶを各員にも頒かつ。此日福岡にやる分、梱包す。本月15日より10キロになり、過量の由にて持戻らる。鶏料理して夕食に頂く。福岡行きは、呼子前田に電報照会す。返信遂に不来。

昭和18年11月26日（金）

晴れ。切手請求。朝熱下降。吉富の松田某来る。少時俟たして相談所に連行さる。序でに坊も診て貰ふ。三種類の薬を調剤して貰ふ。昨貢より葉書あり。今日再び葉書到着。日を異にして発送せし如し。今朝電話にて唐津に照会す。行き違いに呼子より返電来る。余の発送しある電報は24日夜着。それでも発送して呉れた丈け感心だと云はねばならぬ。

昭和18年11月27日（土）

晴れ、後曇り。ミワさん見舞品に蜜柑多数求め来らる。病院に25、道子に35、こちらにも35あり。福岡には他に牛肉百匁、菓子饅頭型、柿50。坊薬不飲。熱多少あり。余注文眼鏡、玉屋より書留小包にて送付越せり。ミワさん明朝、10時18分着の旨電報さる。湯煖房して頂き、其の湯を朝利用す。

昭和18年11月28日（日）

6時41分発車。朝飯焚きしも間に合わず。前日残り飯を食べ出発。余荷物持ち駅に行き、発車を待たず引き返す。坊の起きぬ間にと懸念した為なり。坊余の許を離れず。朝飯遣りたるが、仇せしものか熱下降せず。二回駅に行く。山口局長、痔の療治に通りに会す。10時ミワさん販

る。道子病気なりし由。余の万年筆は所在判明せし由。道子より葉書ありしが、ミワさん持来らる古本篋の中より発見せりと云ふ。子供の仕業らし。

昭和18年11月29日（月）

坊や元気なし。清松医かかり連れて行かる。夕食時まで何も与えず。余の顎に腫れ物生じ、次第に腫張す。道子喘息を誘発、臥床中の由。ミワさん販りにカマス其の他土産貰ふて来らる。

昭和18年11月30日（火）

朝巖来たり。米不足を訴え、家内の郷へ無心に行くと云ふ。坊や稍良好。ミワさん丹金へ約束の煎り子を五円分発送さる。印紙のみ請求す。ミワさんに受領方頼む。常会7時よりミワさん出席。